

Ⅱ 調査結果の概要

売上高は上昇するも、業況の回復には至らず

1. 全体の概況

売上高と収益性を合わせたD I 平均値（前年同期比）〔※「前年同期比」は、29年4-6月期と比較した値。以下、「同期比」と表記〕については、▲13.0となり、前回調査(30年1-3月期)の▲11.5から1.5ポイント下降している。来期見通しにおいては、3.9ポイント上昇して▲9.1となる見通しになっている。

売上高D I（同期比）については▲7.4となり、前回調査から1.2ポイント上昇している。来期見通しにおいては2.7ポイント上昇して▲4.7となる見通しになっている。

収益性D I（同期比）については▲18.6となり、前回調査から4.2ポイント下降している。来期見通しにおいては5.2ポイント上昇して▲13.4となる見通しになっている。

業況D I（同期比）については▲11.3となり、前回調査から0.6ポイント下降している。来期見通しにおいては2.7ポイント上昇して▲8.6となる見通しになっている。

原材料価格D I（前期比）については50.9となり、前回調査から4.6ポイント上昇している。

販売価格D I（前期比）については3.1となり、前回調査から3.1ポイント上昇している。

資金繰りD I（前期比）については▲10.4となり、前回調査から1.8ポイント下降し、悪化している。

金融機関の態度D I（前期比）については前回調査同様0.8となり、変化は見られない。

設備投資実施率については27.8%となり、前回調査から2.7ポイント上昇している。業種別で高い実施率となったのは「機械・機器」・「プラスチック製品」で、目的別では「増産」が26.8%でトップとなっている。

来期の設備投資計画率については42.4%となり、前回調査から5.7ポイント上昇している。

設備操業率D I（前期比）については▲9.0となり、前回調査から1.0ポイント下降している。











雇用人員判断D I（前期比）については16.9となり、前回調査から6.1ポイント下降しているが、依然として不足感が続いている。

全体の景況天気図は、4期連続して「小雨」が続いており、来期見通しにおいても「小雨」が続く見通しとなっている。

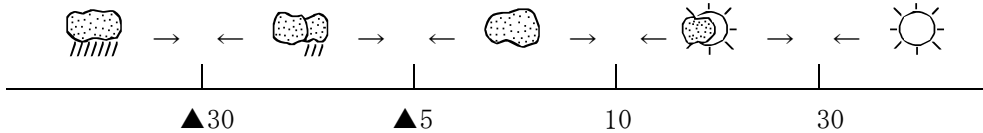
業種別に見ると「紙・加工品」は「小雨」から「薄日」、「繊維・同製品」は「小雨」から「曇」へそれぞれ回復している。反面、「食料品」は「小雨」から「雨」へ悪化している。また、「金属・同製品」・「機械・機器」は「曇」、「木材・木製品」・「窯業・土石製品」・「プラスチック製品」は「小雨」と、それぞれ前回調査同様の天気図となっている。

来期見通しにおいては「食料品」が「雨」から「小雨」へ回復。反面、「繊維・同製品」は「曇」から「小雨」へ悪化。「紙・加工品」は「薄日」、「金属・同製品」・「機械・機器」は「曇」、「木材・木製品」・「窯業・土石製品」・「プラスチック製品」は「小雨」がそれぞれ続く見通しとなっている。

【図表 1】

	28			29				30		来 期 見 通
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	
全 体	 ▲22.2	 ▲21.3	 ▲22.3	 ▲17.8	 ▲4.1	 ▲14.3	 ▲10.3	 ▲11.5	 ▲13.0	 ▲9.1

※景況天気図は「売上高」「収益性」(同期比)のD I 平均値を下記の基準に当てはめたもの。



【図表 2】

